

さきたま古墳群

金錯銘鉄剣・・・謎も超一流

さきたま風土記の丘の「さきたま史跡の博物館」入口





「さきたま史跡の博物館」エントランス





さきたま古墳公園 案内図

Map of Sakitama Kofun Park

さきたま花ごみ



桜並木 大塚山古墳



田舎 大塚山古墳外苑



芝草 二子山古墳外苑



山麓 二子山古墳遺構



中央 二子山古墳外苑



山頂 大塚山古墳外苑



山頂 二子山古墳外苑



- カフェ
- 遊園地
- 駐車場
- 障がいのある人が使える駐車場

公園に関するお問い合わせ・質問先
 埼玉県立さきたま史跡の博物館
 TEL:048-559-1111

2 Km

将軍山古墳展示館

Shogunoyama Burial Mound Exhibit Hall



将軍山古墳

浦里市街へ

前玉神社
浅間塚古墳

中の山古墳

稲荷山古墳

二子山古墳

鉄砲山古墳

奥の山古墳

円墳跡

五塚古墳

はにわの館

天祥寺

レストハウス

移築民家

丸墓山古墳

石田堤

愛宕山古墳

現在地

さきたま史跡の博物館

Museum of The Sakitama
Ancient Burial Mounds



国道 17 号方面
JR 北浦里駅へ
4.5km

さきたま緑道

国営
鉄新

古代の草原

新レストハウス

さきたま広場

古代の森



埼玉県のマスコット

公園に関するお問い合わせ

イラストマップ

さきたま 風土記の丘



「埼玉県立さきたま史跡の博物館 ガイドブック」より





「埼玉県立さきたま史跡の博物館 ガイドブック」より

「さいたま」の名の発祥の地の記念碑(畑和の書とある)



埼玉県名の由来

明治四年十一月十四日、現在の県域に「埼玉県」と「入間県」を設置するとの太政官布告が出された。これが埼玉県の誕生である。以後、幾度かの変遷を経て明治九年八月に現在の埼玉県の区域が定まった。「埼玉」が県の名称とされたのは、当初の県の管轄区域の中で、最も広いのが、埼玉郡であったことによる。

埼玉郡は、律令による国郡制度が発足した当初から設置された郡と見られ、当初は前玉郡（まごまぐみ）という表示も行われ、正倉院文書神龜三年（七二六）の山背国（やましろ）戸籍帳には「武蔵国前玉郡」の表記が見える。また、延喜式神名帳にも埼玉郡の項に「前玉神社二座」とある。

ここ行田市埼玉（まごまぐみ）の地は、巨大古墳群の所在地であり、また「前玉神社」の鎮座する場所でもある。おそらく埼玉郡の中心地であったと考えられるので、ここに碑を立て、県名発祥の記念とする。

昭和六十二年四月

埼玉県

「はにわの館」



旧民家(移築)も二棟あった



旧遠藤家住宅



旧遠藤家住宅



旧遠藤家住宅



旧山崎家住宅



旧山崎家住宅



近くにこんな看板を発見



ここがその前玉(さきたま)神社入口



行田市文化財の大鳥居/江戸時代前期



市指定文化財 建造物

前玉神社の大鳥居

平成十一年三月二十五日指定

この鳥居は、延宝四年（一六七六）十一月に尾城主阿部正能家臣と尾領氏子達によって建立されたものである。

鳥居は明神系の形式で、正面左側の柱に由来を示す銘文が刻まれており、江戸時代における浅間神社の隆盛を伝える貴重な建造物である。

平成十三年二月

行田市教育委員会







この小山の頂上に社殿があるのだが、実はこの小山こそがさきたま古墳群の一つの「浅間塚古墳」なのである





ぎょうだ歴史ロマンの道

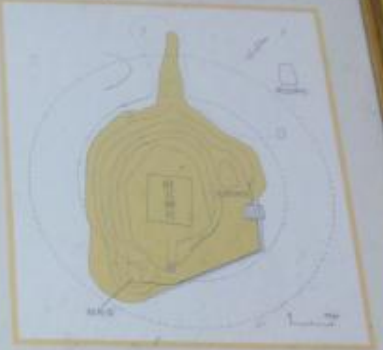
浅間塚古墳

浅間塚古墳は、馬王古墳群の南東部に位置する墳形約50m、高さ約7mの円墳です。古墳の墳形に照り神石、中腹に名前の由来となった浅間神社がまつられています。前古墳群の平安時代の『延喜式神名帳』にその名が見られ、古くから塚本郷の歴史として信仰を集めていました。

浅間塚古墳については、比較的最近まで古墳であるのか、後世に築かれた塚であるのか、議論が交わられていましたが、平成9・10年に行われた発掘調査で幅10mに達する溝が確認され、古墳であることがほぼ明らかになりました。墳輪が削られていた部分の土質が異なること、古墳の南西部の地形を付道に石積の石目と見られる片貝や山石が見られることから、馬王古墳群の築造が終わりを迎える2世紀前半頃に築かれた古墳と推測されています。馬王古墳群の終わりを考えると、重要な古墳であると考えられます。

平成21年3月

行田市教育委員会



Sengundaka mounded tomb

Sengundaka mounded tomb is circular burial mound of about 50m in diameter and 7m in height that belongs to sukitanu mounded tomb cluster.

It is guessed that this mounded tomb was built in around the seventh first half of the century. As a result of the excavation investigation, it was clarified though it was uncertain whether it was a mounded tomb or a tomb that had been built in future generations until recently in the mounded tomb.

It seems that it is an important mounded tomb for thinking about the end of sukitanu mounded tomb cluster.

浅間塚古墳
浅間塚古墳は、馬王古墳群の南東部に位置する墳形約50m、高さ約7mの円墳です。古墳の墳形に照り神石、中腹に名前の由来となった浅間神社がまつられています。前古墳群の平安時代の『延喜式神名帳』にその名が見られ、古くから塚本郷の歴史として信仰を集めていました。

ぎょうだ歴史ロマンの道

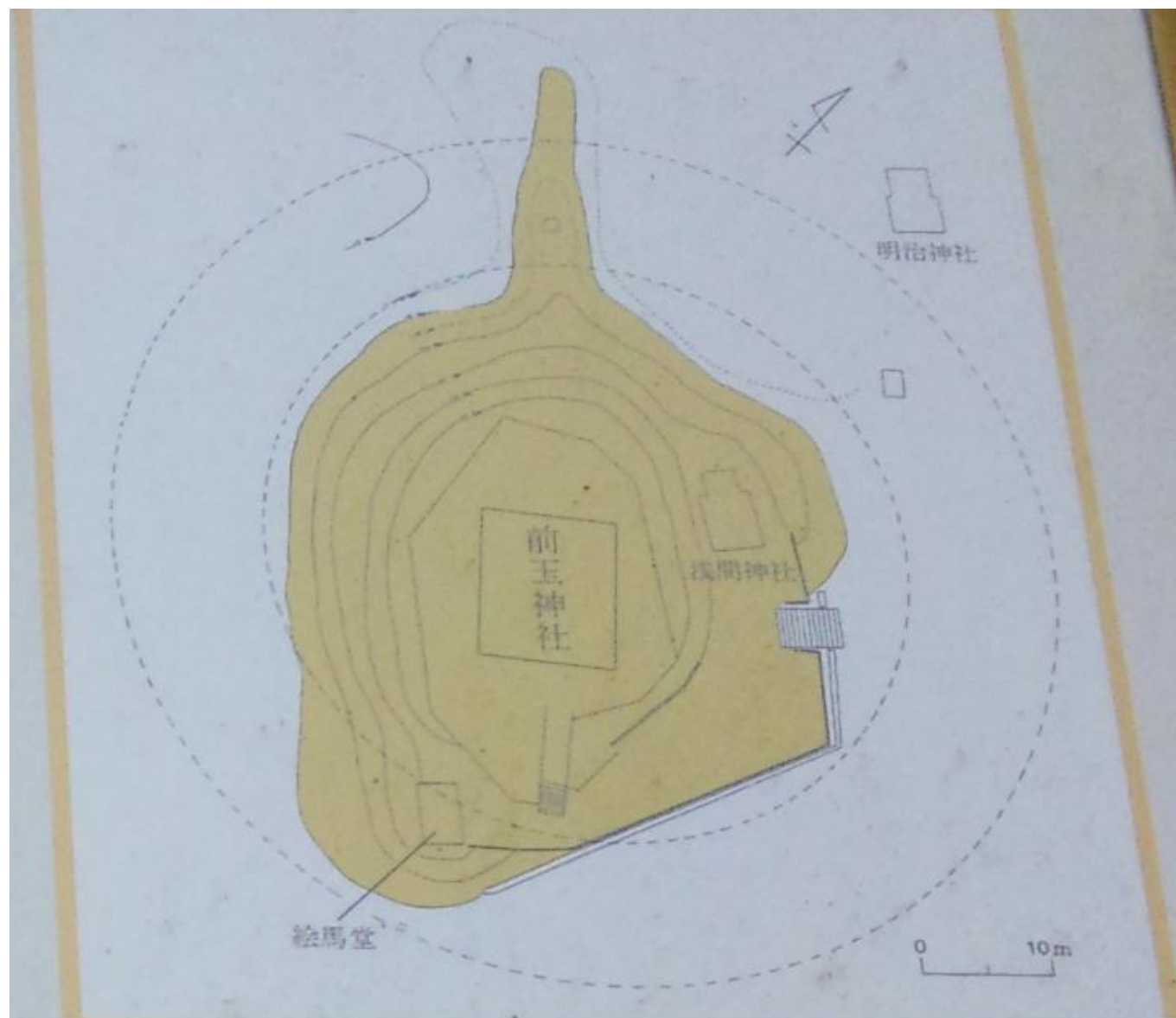
せんげんづかこふん
浅間塚古墳

せんげんづかこふん さきたまこふんぐん
浅間塚古墳は、埼玉古墳群の南東部に位置する墳径約50m、高さ8.7mの円墳
です。古墳の墳頂に前玉神社、中腹に名前の由来となった浅間神社がまつられてい
ます。前玉神社は平安時代の『延喜式神名帳』にその名が見られ、古くから埼玉郡
の総社として信仰を集めていました。

せんげんづかこふん
浅間塚古墳については、比較的最近まで古墳であるのか、後世に築かれた塚であ
るのか、議論が分かれていましたが、平成9・10年に行われた発掘調査で幅10mに
及ぶ周溝が巡ることが確認され、古墳であることがほぼ明らかになりました。埴輪
が樹てられていなかった可能性が高いこと、古墳の南西部の絵馬堂付近に石室の石
材と思われる角閃石安山岩が見られることから、埼玉古墳群の築造が終わりを迎
える7世紀前半頃に築かれた古墳と推測されています。埼玉古墳群の終わりを考え
る上で、重要な古墳であると思われます。

平成21年3月

行田市教育委員会



正面上部に前玉神社、右手に境内社の一つの浅間神社



浅間神社



振り返ると、右手に見えるのは絵馬堂



こんな小さな祠も瓦葺き



行田市文化財の燈籠/江戸時代前期



行田市指定文化財

いし どう ろう
石 燈 籠

昭和42年3月11日 指定

この石段の登り口にある高さ2m、2基一対の石燈籠は、元禄10年(1697)10月15日に、地元埼玉村(現在の行田市埼玉地区)の氏子一同が奉納したものです。

本殿に向かって左側の石燈籠には、「前玉之 小埼乃沼余 鴨曾翼霧 己尾余 零置流霜乎 掃等余有斯(前の小埼の沼に鴨ぞ翼きる 己が尾に降り置ける霜を掃うとにあらし)」と『万葉集』9巻-1744の「小埼沼」の歌が、右側の石燈籠には「佐吉多萬能 津余乎流布祢乃 可是乎伊多美 都奈波多由登毛 許登奈多延曾祢(埼玉の津に居る舟の風を疾み 網は絶ゆとも言は絶えそね)」と『万葉集』14巻-3380の「埼玉の津」の歌が、美しい万葉仮名で竿の部分に刻まれています。この2首の歌は、地元行田市埼玉地区に関連する歌と考えられています。

この石燈籠は、『万葉集』に収められた歌の歌碑としては、全国的にみて非常に古いものになります。江戸時代には『万葉集』の研究が盛んになり、関心も高まっていました。そうした中でいち早くこの歌碑を建立した当時のこの地域の人々の文化的水準の高さと、江戸時代の『万葉集』への関心の高まりがうかがえる、貴重な文化財と言えるでしょう。

平成23年

行田市教育委員会



こんな石造物があった





兩社改樂園樂居

これが前玉神社の社殿

















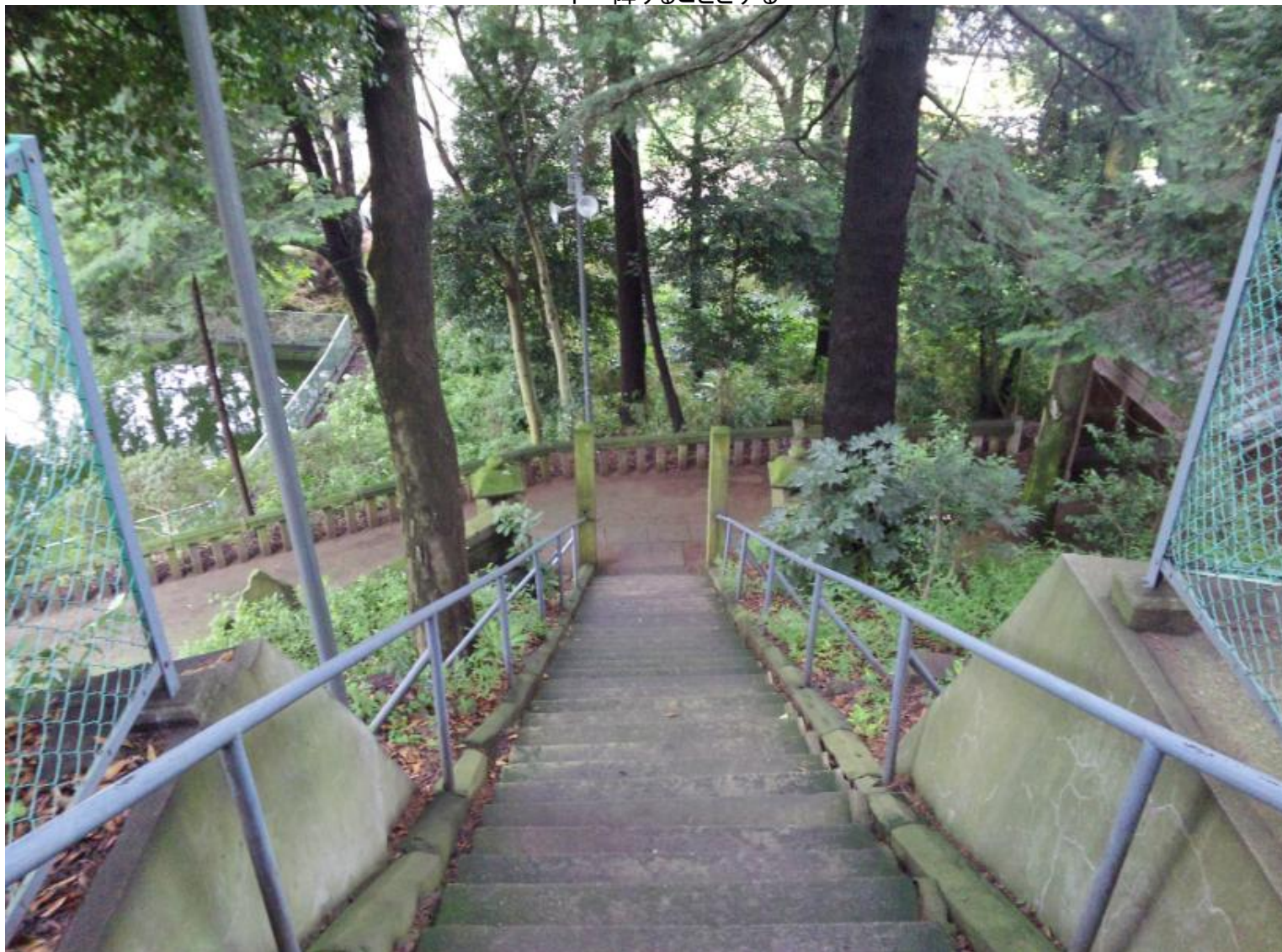








下へ降りることとする





これは境内社の明治神社



これは浅間塚古墳の高まり



手水舎と社務所



入口の大鳥居方向を見る



参考ホームページ
<http://sakitama-jinja.com/>